

【全体概要】

富山県は、冬季は積雪・寡日照並びに夏季はフェーン現象等による異常高温などから、国内の他の地域と比較して、野菜生産においては栽培可能な期間が短く、長期間・安定的に生産・出荷することが難しい。このため、県内市場等からの県産野菜に対するニーズは強いものの、長期間、安定的に出荷できる県外産地の野菜が優先的に取扱われ、出荷期間が短い本県の野菜は優位に販売することができない。

このため、「トマト」及び「ほうれんそう」において栽培施設内の温度上昇抑制技術の実証に取り組み、新技術の確立、普及を図る。

新品種・新技術等の概要

●トマト

- (1) 遮光ネットによる温度上昇抑制技術
- (2) 細霧冷房による温度上昇抑制技術

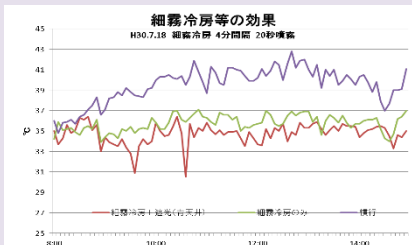


図1 細霧冷房の効果

●ほうれんそう

- (1) 耐暑性と高い品種の選定に向けた品種比較試験
- (2) 遮光及び屋根散水による温度上昇抑制技術

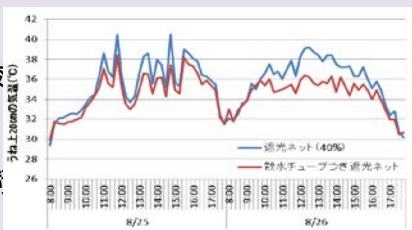


図2 散水チューブ付遮光ネットの効果

主な取組内容

【実証ほの設置】

- ・トマト、ほうれんそうの栽培施設内の温度上昇抑制対策実証ほの設置

【検討会の開催】

- ・実証ほ設置・成績検討会、実証ほ現地検討会
- ・実需者との意見交換会の開催

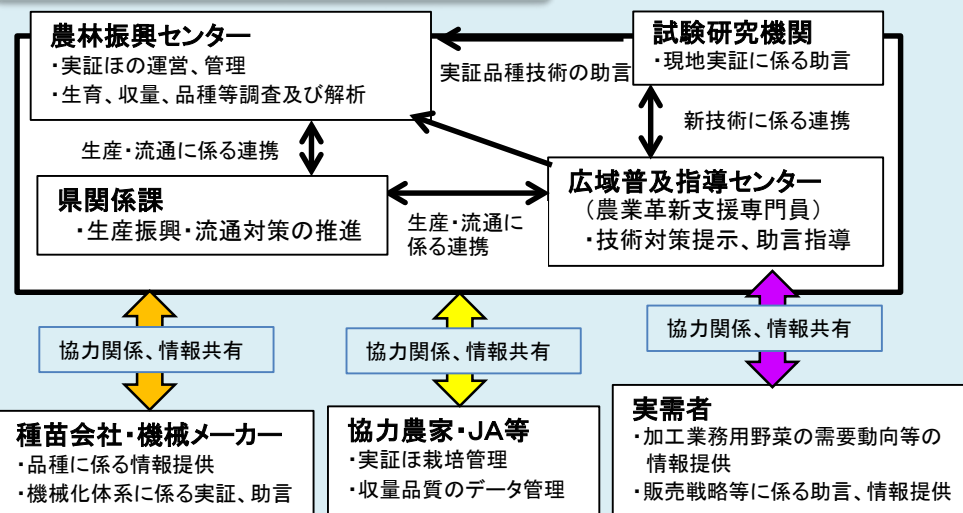
【生産性向上・経営改善効果分析】

- ・「高温対策新技術マニュアル」の作成、配布

【先進地視察の実施】

- ・安定生産技術にかかる県外先進地調査

実施体制図



課題と今後の対応

●トマト

- ・生育指標の作成に必要な生育データを収集するとともに、細霧冷房の温度上昇抑制効果があることが確認できた。
- ・今後は、噴霧方法(噴霧間隔・時間など)を検討するとともに、一層の温度上昇抑制効果向上のため、循環扇や換気窓の活用効果について検討する。

●ほうれんそう

- ・高温期の有望な品種が明らかとなった。また、散水チューブ付き遮光ネットを利用することにより、通常の遮光ネットに比べ、ハウス内温度が2～3℃低くなることが確認された。
- ・今後は、ハウスの開口部分を増やし、換気率の増加により、温度上昇抑制効果の向上も検討する。